

事業報告

第116期 営業報告書(自平成16年3月1日 至平成17年2月28日)

1. 営業の概況

(1) 営業の経過及び成果

(イ) 営業の状況

当期におけるわが国の経済は、堅調な世界経済を背景に回復が進みながらも、後半は伸び悩み、個人消費や輸出の鈍化が見られました。

映画界におきましては、スクリーン数は前年比144増の2,825に達し、映画人口も21年ぶりに1億7千万人を回復すると共に、興行収入は新記録の2,109億円となりました。

このような情勢下にあって当社の業績は、作品を着実にヒットさせた映画営業部門が大幅増収となり、加えて映画興行、演劇、テレビ、映像事業各部門も成績を伸ばし、営業収入は1,057億1千7百万円(前期比20.1%増)、経常利益は172億1千8百万円(前期比23.2%増)、当期純利益は74億6千4百万円(前期比17.6%増)と、それぞれが新記録となりました。

以下各部門ごとにご報告申し上げます。(各部門とも数字は内部振替控除前のもの)

映画製作・映画営業 「イノセンス」「名探偵コナン 銀翼のマジシャン奇術師」「下妻物語」「うみ海ざる猿」「スチームボーイ」「劇場版NARUTO-ナルト-大活劇!雪姫忍法帖だってばよ!!」「NIN×NIN忍者ハットリくん・ザ・ムービー」「スウィングガールズ」「感染/予言」「笑の大学」「ハウルの動く城」「着信アリ2」を製作し、株式会社東宝映画にて「世界の中心で、愛をさけぶ」「いま、会いにゆきます」「ゴジラFINAL WARS」を製作いたしました。

また前記作品のほか「2004ドラえもんフェスティバル」「映画クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶ!夕日のカスカベボーイズ」「劇場版ポケットモンスター アドバンスジェネレーション 裂空の訪問者デオキシス」「映画犬夜叉 紅蓮の蓬莱島/劇場版とっとこハム太郎 はむはむばらだいちゅ! ハム太郎と不思議のオニの絵本塔」「東京タワー」のヒット作品を含む27本を配給いたしました。その結果、映画営業収入は370億7千万円(前期比39.2%増)となりました。

映画興行 日劇プレックス、スカラ座、シネマメディアージュ、ナビオTOHOプレックス、伊丹TOHOプレックス、名鉄東宝、TOHOシネマズ岐阜(旧称シネタウン岐阜)等において興行を行いました。前記当社配給作品のほか、「デイ・アフター・トゥモロー」「スパイダーマン2」「ターミナル」「アイ, ロボット」「ヴァン・ヘルシング」「シュレック2」「オペラ座の怪人」「ネバーランド」「ロード・オブ・ザ・リング 王の帰還」「ハリー・ポッターとアズカバンの囚人」「Mr.インクレディブル」等多彩な話題作・ヒット作を上映いたしました。その結果、映画興行収入は216億6千万円(前期比12.3%増)となりました。

なお期中に、奈良県かしはら橿原市のショッピングセンター「ダイヤモンドシティ・アルル」内に「TOHOシネマズ橿原」9スクリーンをオープン、また、千葉県船橋市のショッピングセンター「TOKYO-BAY LaLaPort」内の既存劇場5スクリーンを2期に分け「TOHOシネマズ船橋ららぽーと」10スクリーンとしてリニューアルオープン、さらに広島県府中町のショッピングセンター「ダイヤモンドシティ・ソレイユ」内に株式会社ティ・ジョイとの共同経営で「広島バルト11」11スクリーンをオープン、それぞれ順調に稼働しております。この結果、直営劇場は合計132スクリーンとなりました。

子会社関連では、熊本県菊陽町に「TOHOシネマズ光の森」9スクリーン、愛知県木曽川町に「TOHOシネマズ木曽川」10スクリーン、栃木県宇都宮市に「TOHOシネマズ宇都宮」10スクリーン、高知市に「TOHOシネマズ高知」9スクリーン、広島市に「TOHOシネマズ緑井」8スクリーンのそれぞれシネマ・コンプレックスをオープンさせ、また運営を受託していた「イオン東浦東宝シネマ8」を中部東

宝株式会社直営とし「ＴＯＨＯシネマズ東浦」（９スクリーン）と名称を変更いたしました。その一方で香川県高松市ほかの老朽化した12スクリーンを閉館、グループで68増の合計456スクリーンとし、質量ともに東宝系興行網の充実をはかりました。

（上記合計スクリーン数には、それぞれ共同経営23を含んでおります。）

演劇興行 帝国劇場においては、ミュージカル「エリザベート」「ミス・サイゴン」、「ささめゆき細雪」「喝采」、ロック・ミュージカル「SHIROH」、「Endless SHOCK」が大ヒットいたしました。芸術座においては、名作「おもしろい女」と「お登勢」がいずれも大入りとなり、また東宝名人会も堅実な興行を行いました。

東京芸術劇場では、新演出によるミュージカル「屋根の上のヴァイオリン弾き」、「レ・ミゼラブルinコンサート」が、そしてル テアトル銀座では、「三婆」が大入りとなりました。

さらに、全国へと展開を続けている東宝演劇の各公演も部門収益に多大の寄与をし、演劇興行収入は128億3千万円（前期比15.9%増）となりました。

テレビ 放送用映画番組は、連続ドラマ「富豪刑事」7本、昼帯ドラマ「永遠の君へ」65本に加えて、スペシャルドラマ「新幹線をつくった男たち」、2時間ドラマ「棟居（むねすえ）刑事の捜査ファイル」「津軽海峡ミステリー航路4」等7本を制作し、深夜連続ドラマ「怪奇大家族」等37本を制作協力いたしました。番組販売収入を加算したテレビ収入は17億3千5百万円（前期比11.6%増）となりました。

映像事業 ビデオ事業は、レンタル用商品（VHS及びDVD）として「陰陽師（おんみょうじ）Ⅱ」「解夏（げげ）」「イノセンス」「名探偵コナン 銀翼の奇術師」「華氏911」「世界の中心で、愛をさけぶ」「パッション」などを提供いたしました。また、セル用DVDとして「陰陽師Ⅱ」「解夏」「赤い月」「下妻物語」「世界の中心で、愛をさけぶ」「パッション」のほか、ボックス版として「タッチ TVシリーズDVD・BOX」などの販売を行いました。

出版・商品事業は「名探偵コナン 銀翼の奇術師」「世界の中心で、愛をさけぶ」「スパイダーマン2」「ハウルの動く城」「ゴジラ FINAL WARS」「いま、会いにゆきます」などが順調に稼働いたしました。版權事業は「東宝怪獣キャラクター」「超星神（ちょうせいしん）グランセイザー」「幻星神（げんせいしん）ジャスティライザー」の商品化権収入と各種受取配分金がありました。以上により映像事業収入は、222億2千6百万円（前期比28.4%増）となりました。

不動産経営 昨年11月にホテル・オフィス複合施設「名古屋東宝ビル」が、12月に商業店舗集積の「札幌東宝ビル（札幌シャンテ）」が竣工し、それぞれ業績に貢献いたしました。一方で上野東宝ビル、熊本プラザビル、南街ビル、高松東宝ビルが再開発のため休館中であり、不動産経営収入は174億7千1百万円（前期比3.9%減）となりました。

その他の営業諸収入は1億1千5百万円となりました。

以上の営業収入合計額1,131億1千万円より内部振替額73億9千3百万円を控除した額が前記営業収入となっております。

（ロ）設備投資及び資金調達の状況

当期の設備投資は、名古屋東宝ビル新築工事代金として49億8千万円、虎ノ門東宝ビル購入代金として13億円、札幌東宝ビル新築工事代金として11億3千9百万円、東京現像所土地建物一部購入代金として6億7千5百万円、南街ビル借地権購入代金として6億2千万円、ＴＯＨＯシネマズ船橋ららぽーと改修代金として3億3百万円、広島バルト11工事代金として2億9千8百万円、その他を加え総額105億7千8百万円となりました。なお、現在継続中の工事に係わる建設仮勘定として、平成17年4月完成予定のアビティ目黒（マンション）建設工事代金として17億8千5百万円、同年7月完成予定の熊本プラザビル建設工事代金として3億5千4百万円が当期の支出となっております。このうち名古屋東宝ビル新築工事代金、札幌東宝ビル新築工事代金、ア

ビティ目黒建設工事代金、熊本プラザビル建設工事代金は第1回無担保普通社債（額面100億円）及び第2回無担保普通社債（額面100億円）発行（払込期日平成15年8月20日）による手取金より充当し、他は自己資金により賄っています。

また第2回無担保転換社債は平成16年8月31日に償還を迎え、償還資金99億9千7百万円は自己資金にて充当いたしました。

（２）当社が対処すべき課題

今後の経済情勢は、景気回復の踊り場を抜ける兆しはあるものの、国際的な原材料高など、なお楽観を許さないものと思われます。

映画業界は、全国興行収入は増えながらも、スクリーンの増に映画人口増が伴わず、従来型映画館の苦戦とともにシネコンの競合も各地で見られ、興行現場は厳しい状況下にあります。

これらに対処すべく当社は、中長期的視野に立つことを基本とし、引続きシネコンの適正出店と、地域で選ばれるサイトとなるべく、お客様サービスの向上に努めてまいります。映画の製作・営業におきましては、高価値コンテンツへの投資を強化する一方、これまでの作品群にとらわれない新しいラインアップに挑戦します。そして作品に合った配給方針を柔軟に進めてお客様のニーズに応えと共に、興行と一体となった戦略により、厳しい競争を勝ち抜いて行く所存です。演劇興行におきましては、芸術座閉館による減収を補うべく、帝劇の稼働率向上に努めると共に外部公演を積極的に行います。また、東宝スタジオ施設の映像製作機能を一段と高めて行くと同時に全国所有不動産の再開発を引続き積極的に進め、より強固な経営基盤の確立を目指します。以上の経営戦略を着実に推進することで、株主価値を高めてまいる所存です。

なお、2003年に設置いたしました当社コンプライアンス・リスク管理委員会の活動を通じ、法令と企業倫理の遵守について、東宝グループ内の規範整備・教育広報活動を進めておりますが、今後とも更に積極的に取り組んでまいる所存でございます。

なお一層のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

（３）過去３年間の営業成績及び財産の状況の推移

区 分	第113期 (平成14年2月期)	第114期 (平成15年2月期)	第115期 (平成16年2月期)	第116期(当期) (平成17年2月期)
営業収入	百万円 98,404	百万円 84,480	百万円 88,026	百万円 105,717
経常利益	百万円 13,090	百万円 12,759	百万円 13,971	百万円 17,218
当期純利益	百万円 6,242	百万円 6,586	百万円 6,349	百万円 7,464
1株当たり 当期純利益	円 330	円 34	円 33	円 39
総資産	百万円 210,561	百万円 195,169	百万円 228,972	百万円 228,571
純資産	百万円 131,813	百万円 123,741	百万円 130,876	百万円 135,472
1株当たり 純資産	円 6,977	円 655	円 692	円 717

- (注) 1. 1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産は、期中平均発行済株式総数及び期末発行済株式総数から、それぞれ自己株式数を控除した株式数を用いて算出しております。
2. 第114期は、平成14年4月22日付をもって、1株につき10株の割合で株式分割を行っておりますが、1株当たり当期純利益は当該株式分割が期首に行われたものとして算出しております。
3. 第115期から「1株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第2号）及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号）を適用し、普通株主に帰属しない金額を控除して算出しております。